厚生科学審議会 疾病対策部会
臓器移植委員会(第84回)
令和8(2026)年11月25日
資料7

いのちの授業
～臓器移植～

学校教育における
あゆみとみらい

東京学芸大学附属国際中等教育学校
佐藤　毅

＜佐藤 毅　さとう たけし＞

主な資格：中学校・高等学校教諭専修免許（保健体育）
養護教諭専修免許
学校図書館司書
第一種衛生管理者免許

主な著書：『高等学校保健体育』（高等学校 保健体育教科書）
Textbook編・Activity編　第一学習社

趣　　味：献血（現在57回）

そ の 他：骨髄提供の経験 あり

＜なぜ　いのちの授業？＞

児童生徒のいじめ・自死を減らしたい

↓

それには「いのちの授業」の充実が必要

↓

1997年～教員（社会を見渡した）

↓

臓器移植が話題に（生きる・死ぬというストーリー）

↓

2000年～高校保健科で（「生老病死」をテーマ）

↓

2013年～出前道徳授業（現在、57校・約16,500人へ）



＜これまで①＞

2000年～

高等学校保健科　テーマ:「生老病死」

高校2か年（約70コマ）

臓器移植:2年目に11コマ実施（Coの講話含）

2013年～

出前授業 「本当に伝えたい!!いのちの授業～臓器移植～」

全国の小学校・中学校・高等学校・大学へ

現在、57校・約16,500人へ

（実践例）

令和8年11月25日（水）

・「生」「死」という言葉がたくさんでてきます。

特に「死」。死ぬ確率　100%

・しかし…⇒リラックスして、「笑顔」で??

もちろん　ま・じ・め　は大前提。&保健室

・まずは、生理学的な話題をしてから本題へ

・勧めているわけではありません!!

過去と現状と法律を伝えているだけです。

・世界との比較

・1人→11人

2015年～

＜4つの権利＋1＞



令和8年11月25日（水）

2013年～

家族と話そう!!シート

◎答えが出ないときは、自然と答えが出るときまで待ちましょう。　その際、空欄ではなく、「今は考えられない」「考えたけど結論がでない」等何か記入しましょう。

	自分の気持ち	親の気持ち	結論
親が脳死になったら	あげたい・あげたくない	予想 あげたい・あげたくない	あげたい・あげたくない
自分が脳死になったら	あげたい・あげたくない	予想 あげたい・あげたくない	あげたい・あげたくない
親が移植を必要になったら	もらいたい・もらいたくない	予想 もらいたい・もらいたくない	もらいたい・もらいたくない
自分が移植を必要になったら	もらいたい・もらいたくない	予想 もらいたい・もらいたくない	もらいたい・もらいたくない

◎ この気持ちは時々確認しましょう。途中で変わってもかまいません。
◎ 臓器移植について、いい・悪いを伝えに来たのではありません。
あくまでも生命科学の発展と、医療への応用を日本の倫理、法律、社会問題に即して、
みなさんに知ってもらい、そして考えてもらっています。

3年　　組　氏名

★宿題 → （親に説明）家族と話す → 班で級友と共有 → 級友やその家族のこと（価値観）を知る事ができる

＜成果やデータ①＞
～児童生徒・学生・親の感想～

児：「臓器ロス」をなくしたい

生：「死ね」と簡単に言ってはいけないと感じた。
反省しています。

生：一日一日を大切に生きたい。

生：正解がないから考えやすいし話しやすい。

学：移動式（判定・手術）を開発を目指す。

保：丁寧に説明をしてくれたおかげで、話しやすかった。

＜これまで②＞

2013年～（2013･2018･2019･2020･2021･2022･2024･2025 年）
（公社）日本臓器移植ネットワーク（以下 JOT）・日本教育新聞社　主催の教育セミナー

2020年
JOT制作　漫画教材『つながるいのち』 監修

2024年
JOT制作　映画教材『サンクスレター』 監修

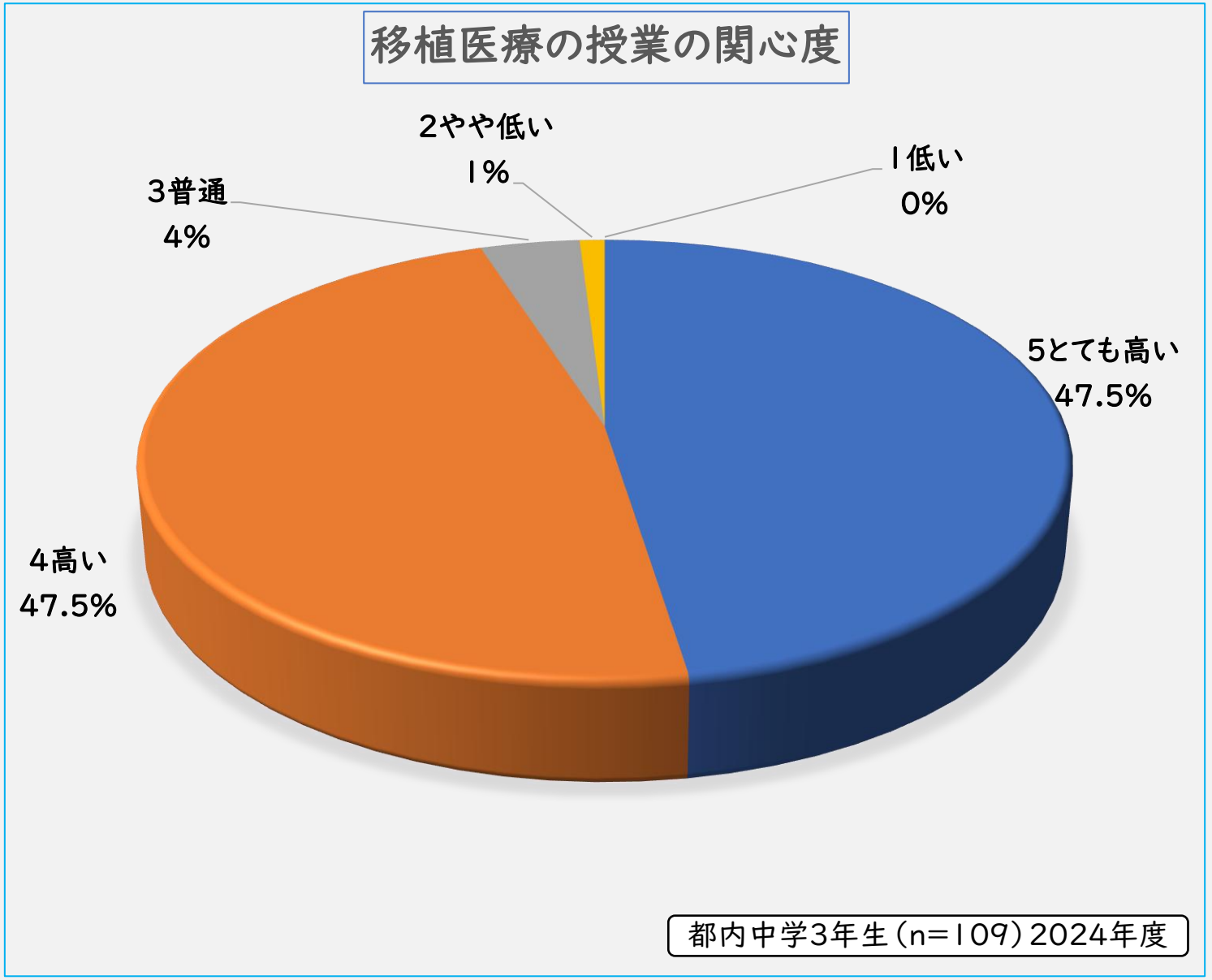
研究と実践：3つの厚労科研で協力研究者として参加

これまでに開発した
『5つの倫理的ジレンマ教材』
と
『家族と話そう!!ポスター』

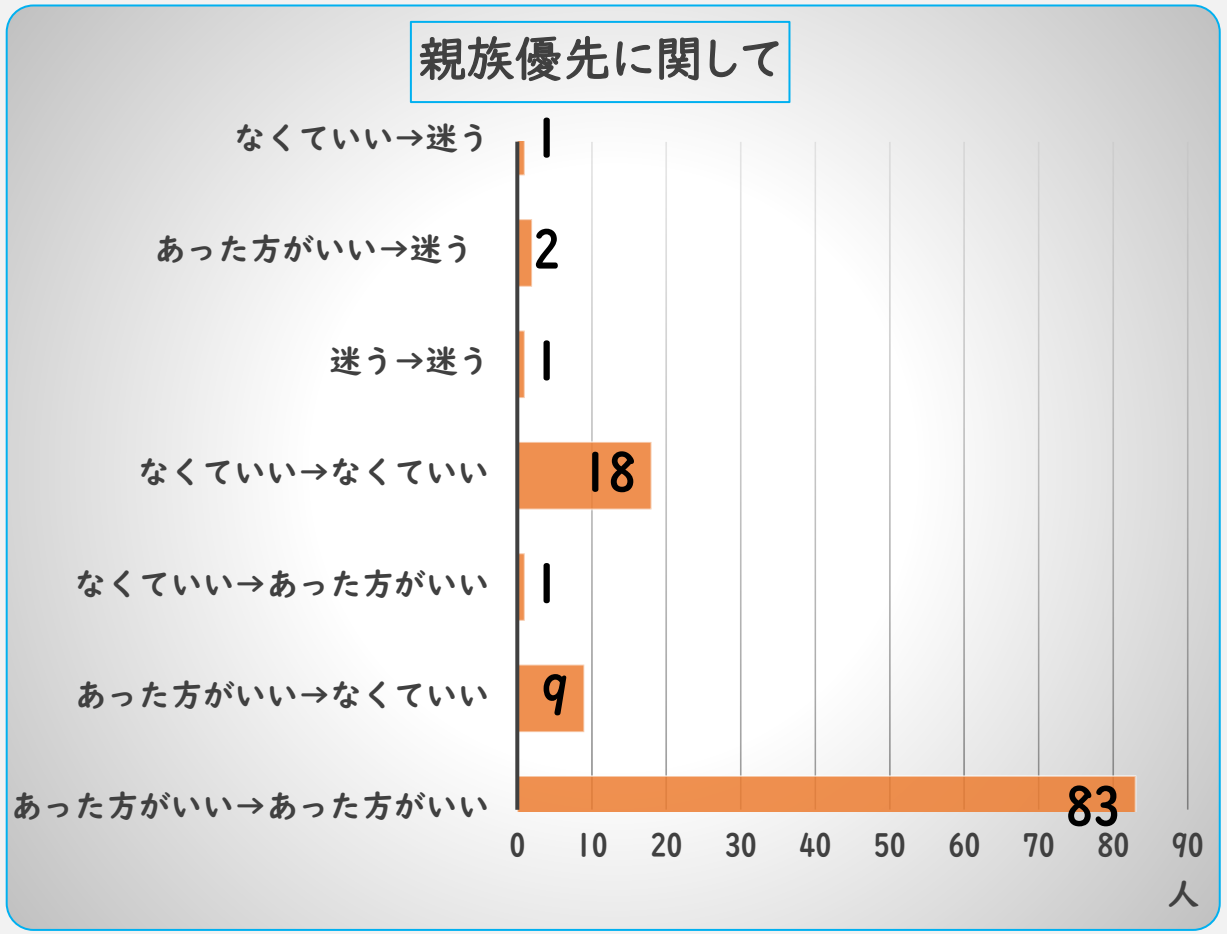
①匿名の原則
②オプトイン・オプトアウト
③親族優先
④臓器売買
⑤募金と渡航移植

（「生命倫理の原則」や「滑りやすい坂論」を伝えてから）

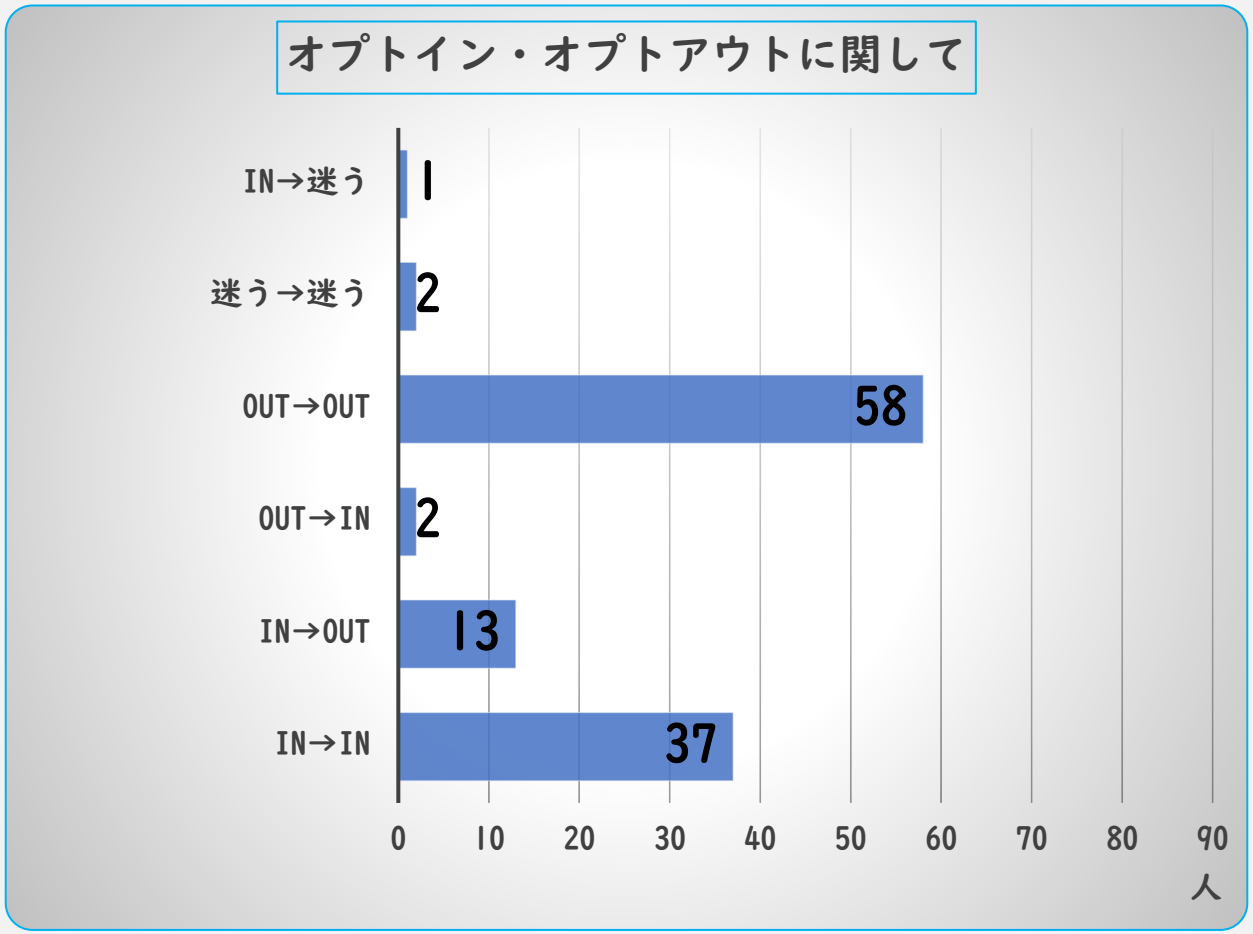
＜成果やデータ②＞


移植医療の授業の関心度
2やや低い
1%
1低い
0%
3普通
4%
5とても高い
47.5%
4高い
47.5%
都内中学3年生（n=109）2024年度

<成果やデータ③>



都内中学3年生（n=115）2024年度



都内中学3年生（n=113）2024年度

もしものとき、どうする？「我が事」と「社会事」

家族と話そう!! 臓器提供・臓器移植

腎臓

肝臓

臓器提供・臓器移植とは？

病気や事故によって臓器の機能が低下し、移植でしか治らない人に、他の人の臓器を移植し健康を回復する医療です。健康な人からの生体移植と亡くなった方からの提供による移植があります。亡くなった方からの臓器提供には脳死下と心臓が停止した死後の提供できる臓器は異なります。

ドナー　臓器を提供する人（臓器提供は、**家族**の承諾が必要なため、意思表示をして話し合っておくことが大切です。もしものとき、家族が困らないためにも、事前に話し合っておきましょう。）（善意に基づく無償の提供ですので、臓器提供者の方には提供に関する費用は一切かかりません。）

レシピエント　臓器移植を受ける人、もしくは受けた人。

脳死　脳全体の機能が失われた状態。（回復する可能性はありません。植物状態とはまったく異なります。）

脳死後に移植できる臓器　心臓・肺・肝臓・腎臓・膵臓・小腸・眼球（**1人**のドナーから**最大11人**のレシピエントを救うことができます。）

歴史
1963年　世界初・・・脳死肝臓移植（アメリカ）
1997年　日本「臓器の移植に関する法律」施行
2008年　国際移植学会による「イスタンブール宣言」
2010年　日本「改正 臓器の移植に関する法律」施行

免疫抑制剤　移植を受けた人は一生飲み続ける必要があります。

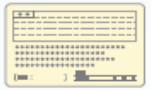
肺

4つの権利とは？

「**提供する**」「**提供しない**」「**移植を受ける**」「**移植を受けない**」です。
どれも自由に選べて、いつでも変更できます。答えが出ない時はゆっくり考えましょう。

日本における意思表示の方法とは？


マイナンバーカードの表


運転免許証の裏



意思表示カード



インターネット

「提供する」だけではなく、「提供しない」という意思も表示できます。「提供する」意思の表示は民法上の遺言可能年齢の15歳以上が有効です。「提供しない」意思は何歳からでも有効です。

世界と日本を比べると？（臓器提供者数：人口100万人比）

スペイン **53.93人**　アメリカ **49.70人**　日本 **1.13人**

出典：IRODat(DTI Foundation)2024年

臓器提供・移植の流れ

入院（医師・看護師・検査技師）→ 説明（移植コーディネーター・メディエーター）→
家族の意思決定 → 法的脳死判定 → 公平に選定（日本臓器移植ネットワーク）→
摘出手術 → 搬送 → 移植手術 → 術後の生活

※（　）内は主に医療従事者の方々（実際は、医療従事者の方々以外に警察・消防・行政等も関わります）

家庭と学校とのつながり

膵臓

①死生観
「**家族と話そう！！シート**（添付データあり）」を使って家族と話し合ってみよう！

②主に道徳や探究学習など多様なつながりがあります。
国語・理科・社会・保健・家庭科・道徳・総合的な探究の時間等を通じて考えを深めよう！
「**社会のみらい探究ワークシート**（添付データあり）」を使って

調べて（収集）▶ **まとめて**（分析）▶ **発表**（表現）▶ **問いの設定**（発見）してみよう！

★当事者の手記を読んでみよう！

★マンガ教材「つながるいのち」・
映画教材「サンクスレター」あります

③課題は？～様々な角度から～
（例）脳死と植物状態との違いは？日本における希望登録者数や待機年数は？オプティング-イン（アメリカや韓国や日本等）とオプティング-アウト（スペインやフランス等）とは？日本における小児の提供・移植の課題とは？日本で生体移植が多いのはなぜだろう？意思表示率や家族との対話率は？

厚生労働科学研究費補助金
「国内の移植医療推進10カ年戦略に関する研究」において作成

小腸　心臓

復習にピッタリ！
「**グリーンリボン検定**」にチャレンジして
プレゼントをgetしよう！！

グリーンリボンは移植医療のシンボルです

臓器移植　検索

監修：（公社）日本臓器移植ネットワーク

＜これから①＞

＊学校教育において

1）児童生徒へこれまで以上に正しい知識を普及させる必要性

2）発展的な学習機会＝探究学習での活用を充実させる必要性

＊JOTをはじめ、関係機関との連携の必要性

＊コンテンツを充実させながら、授業教材の支援の必要性

＜これから②＞

＊年齢問わず「死生観の醸成」に向けて

臓器移植（「生」と「死」のストーリー）という題材を広める

↓

生命の尊さだけでなく、人との関わりや社会との関わりまで含めて考えられる題材（まずは「家族」）

⇒大人への啓発も勿論大切だが、最も重要なのは学校教育である

対大人への効果（労力）＜ 対児童生徒への効果

が期待される

＜結論①　更なる学校教育の充実へ＞

臓器移植を題材にして児童生徒に「生」「死」を考えてもらうために

↓

現場の先生方へ正しい知識を伝える機会を増やす

（やる気に満ちた先生方だけではなく、まだまだ誤解している先生方へ）

↓

教育者向けセミナーを今まで以上に開催する

＝臓器移植を教えるのではなく、臓器移植でいのちについて深める

＝児童生徒たちの「自己の生き方」や「人間としての在り方」

について考えるためのきっかけつくりが増える

（いじめ・自死が減ることを願いながら進める）

＜結論②　更なる学校教育の充実へ＞

★次期学習指導要領へ記載すること（現在、高等学校　保健科のみ）

2018、2019年度～　道徳の教科化

2021、2024年　大学入学共通テストに出題（公民科）

「いのちの授業～臓器移植～」　必修の必要性

★教職を目指している方へ

⇒小児科医の講話を必修単位へ

★家族との対話↗＝社会全体の死生観が醸成

それには、⇒厚労省と文科省がもっと手を取り合うべき

⇒「家族と話そう!!」シートの活用を推奨